



は じ め に

本学の保健管理センターは、健康管理部門と学生相談部門の 2 部門で構成されていますが、2018 年度は看護学部ならびに学生課の協力のもと、相互に連携しながら学生と教職員の心身の健康管理に携わっております。

健康管理部門は、春の定期健康診断や種々のワクチン接種の案内およびフォロー、学生の基礎疾患把握、体調不良者に対する医療機関への受診勧告や学生課の協力のもとでの医療機関への搬送などを行っております。また、禁煙ならびに性感染症に対する啓蒙活動はいわき市保健所との連携により実施しています。

学生相談部門は、主に学生生活において様々な精神的問題を抱えている学生に対して専任カウンセラーが定期的に面談を行い、学生生活をスムーズに送ることが出来るよう支援しております。また、当センターには、学生が誰でも気軽に利用できる「学生サロン」が開設されており、様々な学生の居場所として利用されています。学生サロンでは学生相談部門のカウンセラーが短時間のプチ相談なども行っており、学生が気軽に相談しやすい場所として機能しています。また、本サロンでは、学外ボランティアのご支援により様々な活動を行っております。

今後も多くの方々のご協力を頂きながら、学生ならびに教職員の健康支援を行っていきたいと思いますので、ご支援宜しくお願い申し上げます。

いわき明星大学保健管理センター長

村 田 和 子

目 次

はじめに

〔業務報告〕

1. 健康管理部門

平成 29 年度	4
平成 30 年度	20

2. 学生相談部門

平成 29 年度	22
平成 30 年度	26

保健管理センター業務報告

いわき明星大学保健管理センター紀要第 17 号

1. 健康管理部門

I. 平成 29 年度 年間活動報告

月	内容
4 月	入学式(救護)、ガイダンス 新入生基礎疾患把握・呼び出し・フォロー 障害学生における支援内容確認・連携 定期健康診断・健康診断結果配布 健康診断結果事後措置 教職員健康診断開始 白衣授与式(救護)
5 月	UPI(University Personality Inventory)結果による呼び出し・学生相談室との連携 健康診断結果事後措置
6 月	禁煙週間イベント(主催:いわき市保健所) 父母会総会(救護)、学内献血 オープンキャンパス(救護)
7 月	保健管理センター運営委員会(第 1 回) オープンキャンパス(救護)
8 月	弓道大会(救護) オープンキャンパス(救護)
9 月	父母会地区懇談会 労働基準監督署報告(定期健康診断・特殊健康診断) 救急法講習会(協力:いわき市消防団)
10 月	入試対応(救護) 学園祭(救護、食中毒防止)
11 月	後期特殊健康診断(学生・教職員) 入試対応(救護)
12 月	世界エイズデー講演会(主催:いわき市保健所) 子宮頸がん検診(主催:いわき市保健所) 薬学部 OSCE(救護)、入試対応(救護)
1 月	大学入試センター試験(救護)、薬学部 CBT(救護) 労働基準監督署報告(定期健康診断・特殊健康診断)
2 月	入試対応(救護) 保健管理センター運営委員会(第 2 回)
3 月	入試対応(救護)、オープンキャンパス(救護) 学位記授与式(救護)

Ⅱ. 平成 29 年度 定期学生健康診断

【実施内容】

	項目	対象
1	計測(身長・体重・血圧)	全学年
2	尿検査	全学年
3	胸部レントゲン撮影	1 年生、4 年生以上、大学院生 研究生、編入生 施設実習予定者(介護・教育・社会福祉) スポーツ系サークル所属者
4	① 7 種抗体検査 麻疹・風疹・水痘・ムンプス B 型肝炎抗原・抗体、C 型肝炎抗体	薬学部 1 年生、編入生 看護学部 1 年生、編入生
	② 薬学部肝炎抗体検査 B 型肝炎抗原・抗体、C 型肝炎抗体	薬学部 4 年生 (肝炎ワクチン接種前の抗体値確認)
5	内科健診 (両日とも 9 時～15 時)	希望者
6	特殊検診 (有機溶剤健診、特定化学物質健診、 電離放射線健診) 前期:5 月頃、後期:11 月頃実施	有害物質を使用した実験・研究に関わる学生 (半年毎に年 2 回実施)

※ 抗体検査において、陰性および疑陽性の学生には予防接種を勧奨する。

予防接種に係る費用は個人負担とする。

※ 定期健康診断にて肥満度Ⅱ度 (BMI35.0) 以上の者で、生活習慣改善に取り組んだ学生、かつ医師の指示のあった学生に対しては、後期に学内採血を実施。その後、校医診察・指示にて精査・治療が必要な学生には医療機関の受診を勧奨する。

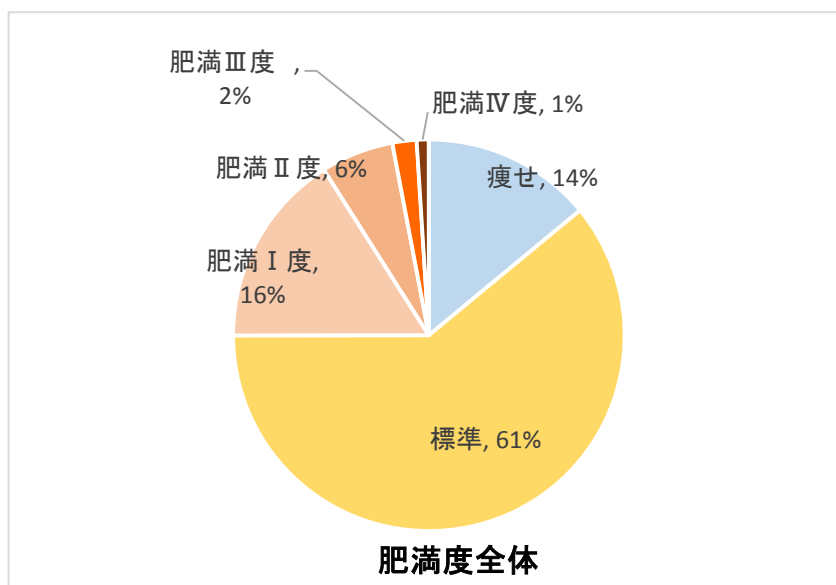
【結 果】

1. 受診率

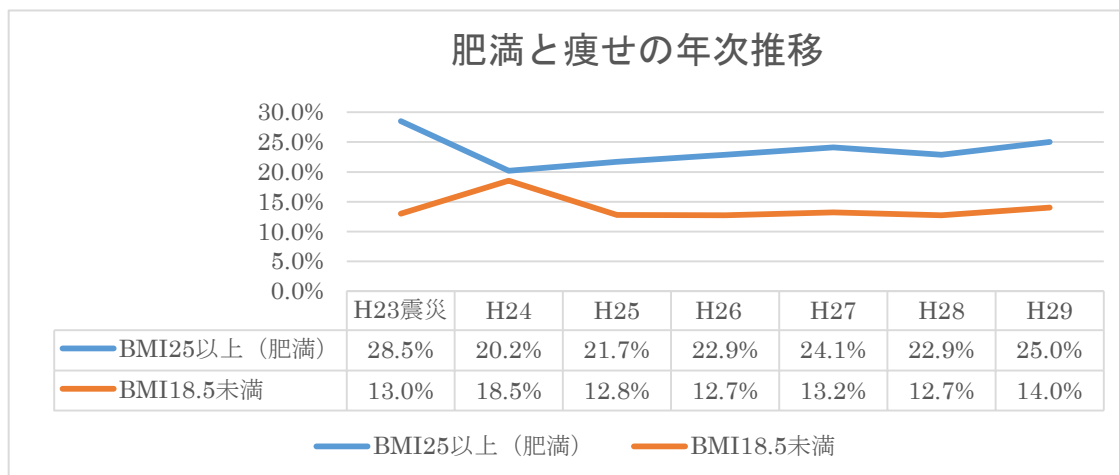
- ・ 90.9%（平成 28 年度 100%）
- ・ 対象数：1008 名（受診者 916 名、男性 466 名、女性 450 名）

2. BMI (Body Mass Index) … 肥満度の指数（体重÷身長²）

（1）肥満度



（2）肥満・やせの推移



3. 健康診断および看護師の問診により新たに疾患が発見された学生

糖尿病 1 名、腎疾患（疑い）3 名

4. 尿検査・血糖検査

- ・ 採尿方法 … 早朝尿を自宅採取（月経中の者も提出）
- ・ 尿糖（±）以上、尿たんぱく（+）以上を有所見者とし、校医指示のもと再検査を実施。

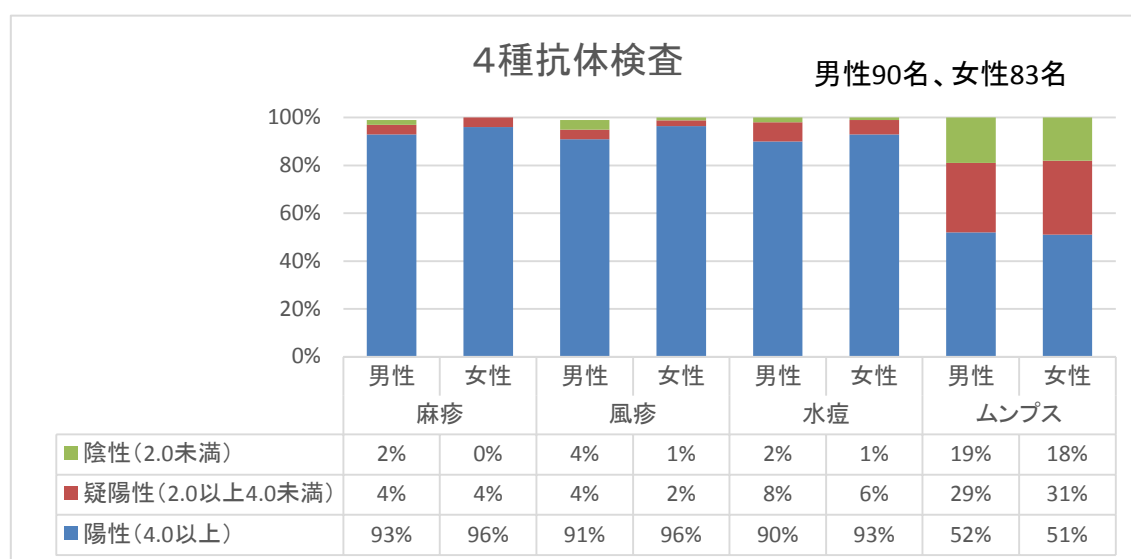
必要に応じて医療機関を紹介している。

	尿糖(±)以上	尿蛋白(+)以上
男(n=403)	1%	16%
女(n=427)	1%	9%

5. 胸部レントゲン

- ・受診者数 … 645 名（対象：1 年、編入生、4 年生以上、スポーツサークル所属者）
- ・撮影方法 … 間接撮影法
- ・要精密検査者 … 1 名（胸水疑い → 精密検査にて「異常なし」）

6. 新入生抗体検査 ※すべて EIA-IgG 法



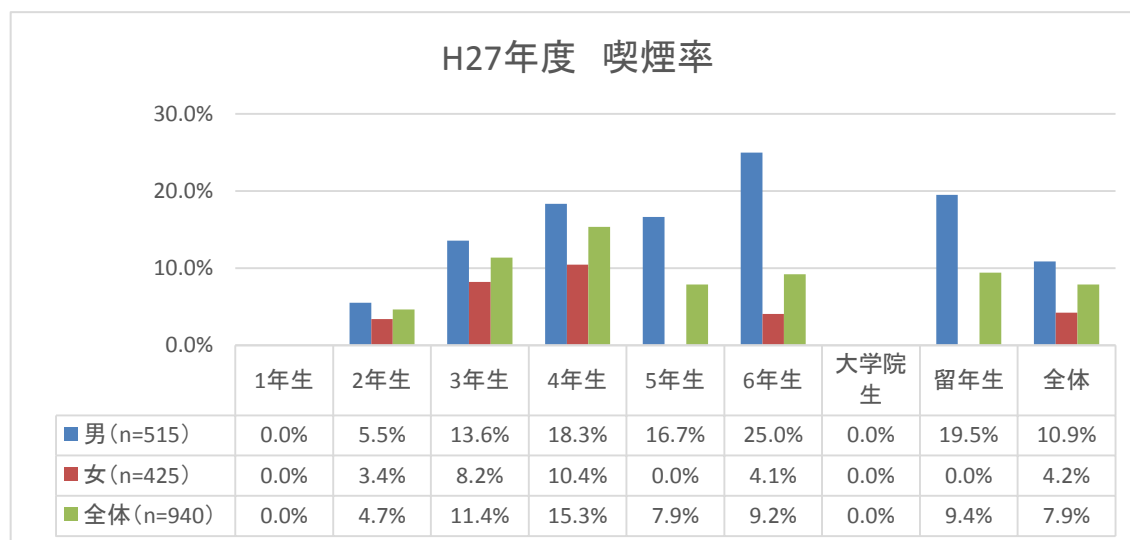
健診先より提示された基準値に合わせると、陽性（EIA-IgG 法 4.0 以上）の割合は、麻疹が男性 93%、女性 96%、風疹では男性 91%、女性 96%となる。しかしながら、“十分に抗体を有する値（EIA-IgG 法にて麻疹 16.0 以上、風疹 8.0 以上）に照合した場合は、麻疹 23%、風疹 65%となる（表 1 参照）。実習のある学科においては、“十分に抗体を有する値“を基準値としてワクチン接種を勧奨している。なお、ワクチン接種後の抗体値確認は実施していない。

表 1.

麻疹				風疹			
EIA-IgG 値	男性	女性	全体	EIA-IgG 値	男性	女性	全体
8.0 以上 16.0 未満	42%	43%	43%	8.0 以上	63%	67%	65%
16.0 以上	17%	30%	23%				

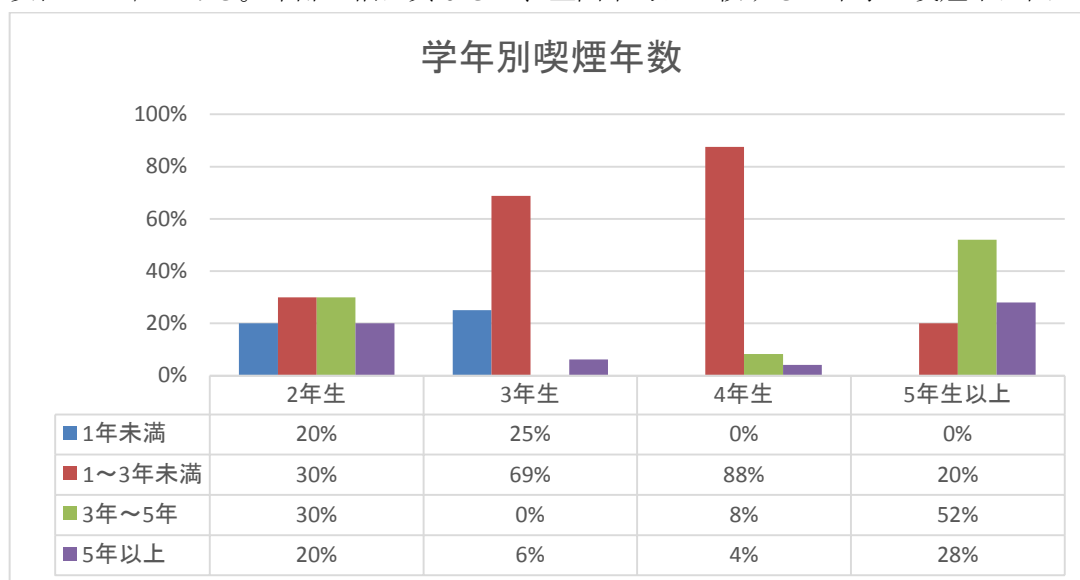
7. 生活習慣

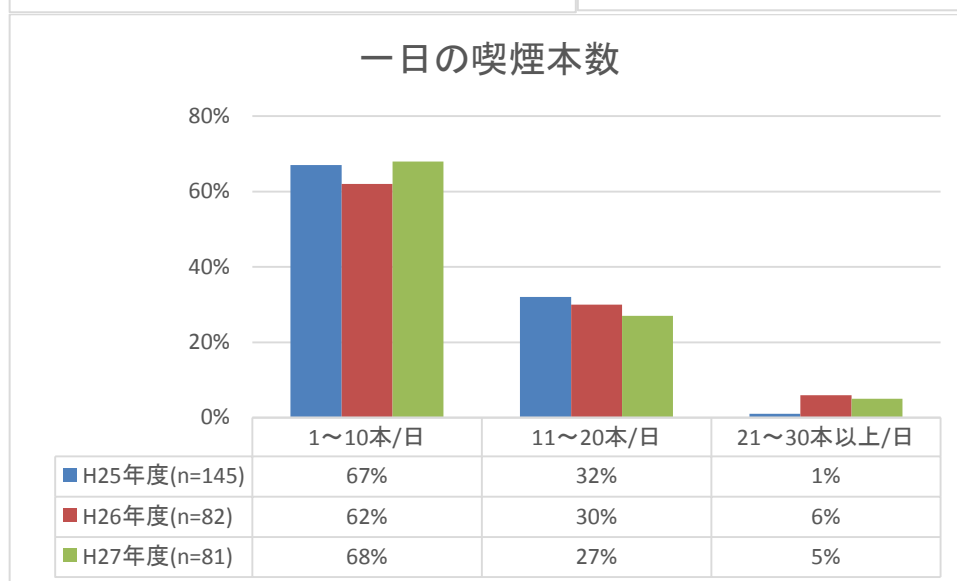
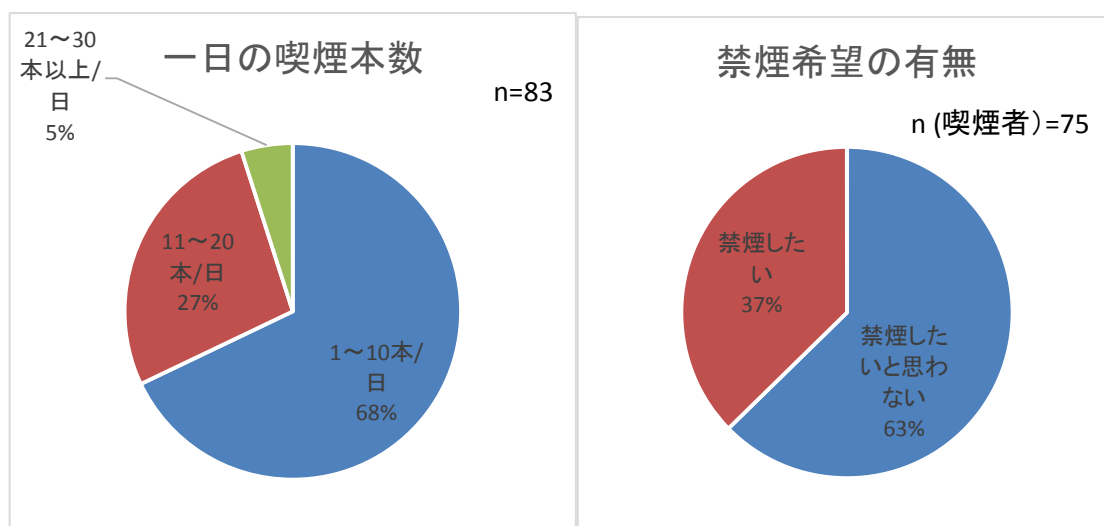
(1) 喫煙



喫煙率においては、1年生および大学院生は0%であり、2年生から4年生にかけて増加傾向にある。全体では前年度の14.6%から7.9%へと、6.7%の減少が見られた。

厚生労働省「平成25年 国民生活基礎調査の概況」によると、20歳から29歳までの喫煙率は男性36.5%、女性13.0%である。年齢の幅は異なるが、全国平均に比較すると本学の喫煙率は低い傾向にある。

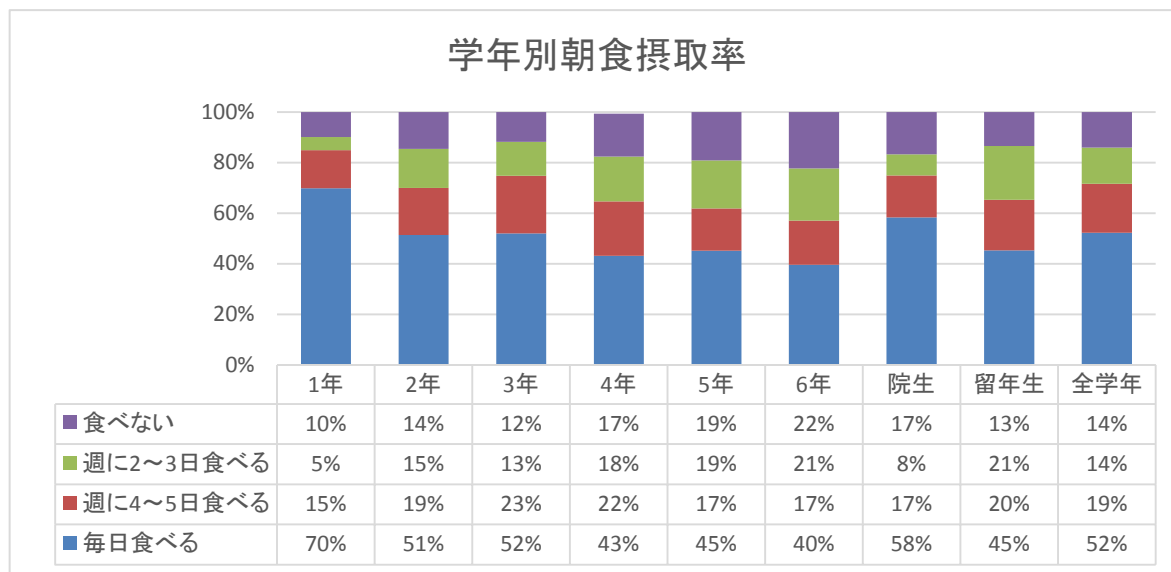




学年別喫煙年数においては、2年生において1~3年未満および3年~5年未満が30%であり、入学以前より喫煙していた可能性がある。入学時の年齢にも依るが、未成年時からの喫煙者がいることを示すものであり、喫煙年数が長期に及ぶ前に、喫煙による害や受動喫煙による健康障害などについて教育していく必要がある。

アンケートでは、「禁煙したい」と答えた者が37%おり、喫煙本数が1本~10本の者が68%存在する。禁煙希望学生と喫煙年数との関係については、今後関連性を調べる必要があり、これらの学生へ早期介入することが、喫煙本数の減少や、禁煙成功への鍵となるであろう。本学では、いわき市保健所主催にて毎年5月に「たばこの害の啓発活動」として、学生食堂において啓発グッズの配布を行っている。これらの活動を有効に活用し、継続して喫煙率減少に向けて関わっていく必要がある。

(2) 朝食摂取率

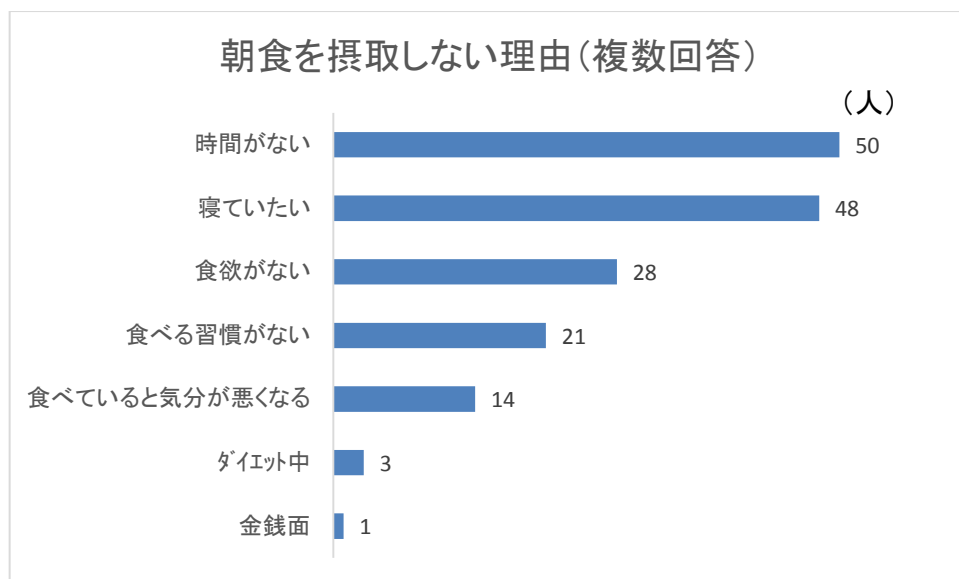


朝食摂取率においては、全体で 52%が「毎日食べる」と回答しており、前年度の 48%から 4 ポイント上昇した。特に、3 年生から 5 年生、大学院生と留年生の朝食接種率において上昇した。学部・学年別摂取率では、薬学部 1 年生が 74%、薬学部 4 年生が 72%、次いで薬学部 3 年生が 69%、教養学部 1 年生が 65%であり、上位 3 位を薬学部が占める結果となった。これは自宅からの通学などの環境条件も結果に影響を与えていると思われるが、一人暮らしの学生においても自己管理の一つとして、自らの健康は自ら管理し、「食」を大切にする姿勢を培えるような働きかけが必要であろう。

本学では、学生の規則正しい生活を目的とした「ワンコイン朝食」(写真 2)を前期・後期において実施しており、100 円で朝食を摂取できるシステムをとっている。以前は、朝食を食べずに登校し、脱水や脳貧血と思われる症状で保健管理センターへ来室する学生がおり、スタッフのお菓子や栄養補助食品等で補食後、回復する学生が年間 5～6 名は見られていたが、ここ数年はそのような学生は見られていない。



写真 2. ワンコイン朝食



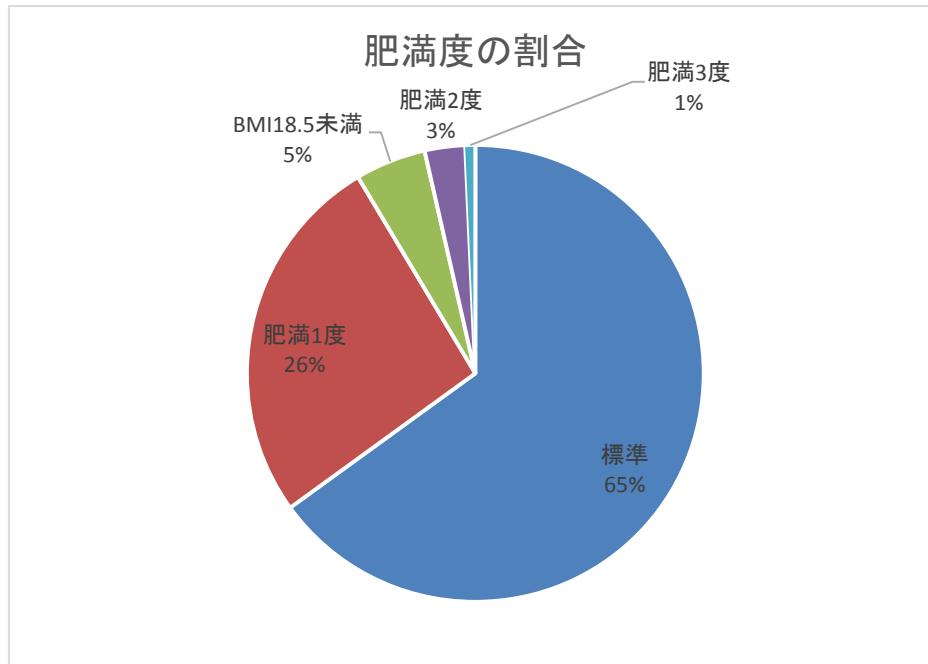
「朝食を摂取しない理由」においては、毎年、同程度の割合を示している。学生からの聞き取りでは「バイトや勉強で夜遅く帰宅し、その後に夜ご飯を食べるため、朝は食欲が湧かない」「午前1時にバイト仲間と、ガッツリ系のものを食べに行く」「夕方からバイトに入るのでバイトが終了する夜中にお腹が空いてしまう」などの声が聴かれている。夜は軽めのものを摂取すること、就寝前の摂食は睡眠障害を招く恐れがあることなどを随時指導している。

Ⅲ. 平成 29 年度 教職員健診結果

1. 受診状況

- ・受診率 … 92%（前年度 92%）
- ・対象：新規雇用者・病気療養中を除く 138 名（男性 88 名、女性 50 名）

2. BMI（肥満度）



肥満1度が前年度より4%増加し、標準の割合が5%減少した。肥満2度以上においては前年度とほぼ同様の割合であった。

3. メタボリック症候群割合（40歳以上）

- ①メタボリック症候群該当：19%
- ②メタボリック症候群＋予備軍：27%

4. 血液検査

	要観察	要注意	治療中	データ改善
脂質	17%	17%	3%	9%
肝機能	5%	5%	1%	7%
糖代謝	4%	2%	3%	1%

「要観察」の割合は昨年度とほぼ同じ割合であったが、脂質における「要注意」の割合は8ポイント増加が見られた。

「すべて異常なし」の割合は、全体の16%であった。16%のうち40歳以上の占める割合は8%であり、毎年ほぼ同じ者が継続して異常なしで経過している。男性と女性の割合は同率であった。

5. その他

- ①尿検査…尿糖0名、尿たんぱく1名
- ②心電図…要観察2名、要注意5名、治療中1名
- ③胸部レントゲン…要精査1名（精査にて異常なし）

6. 特殊業務従事者健診

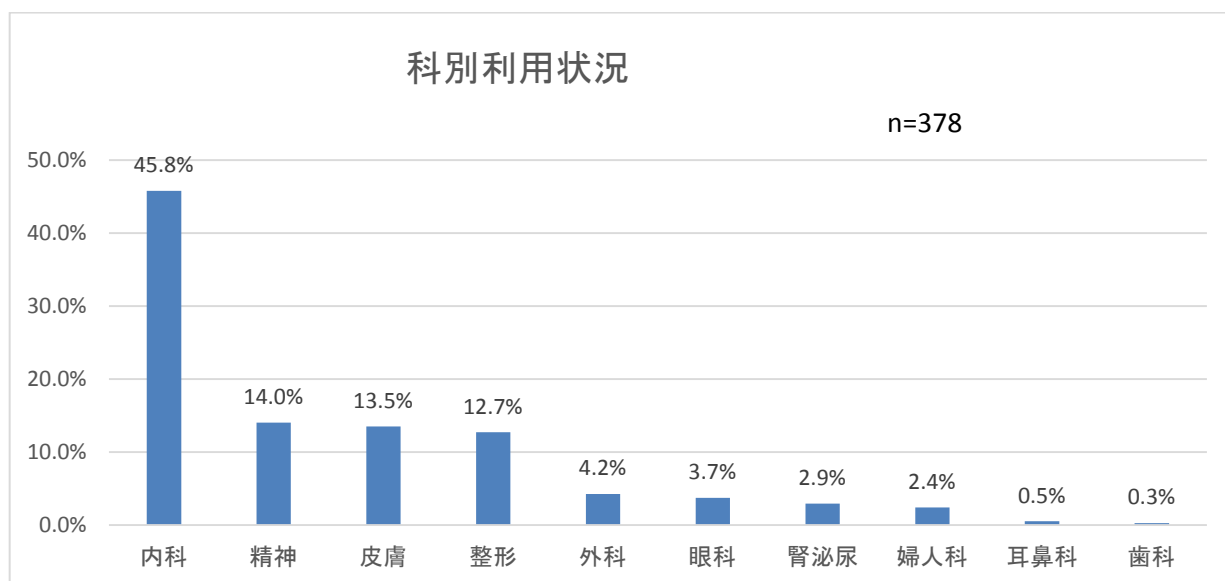
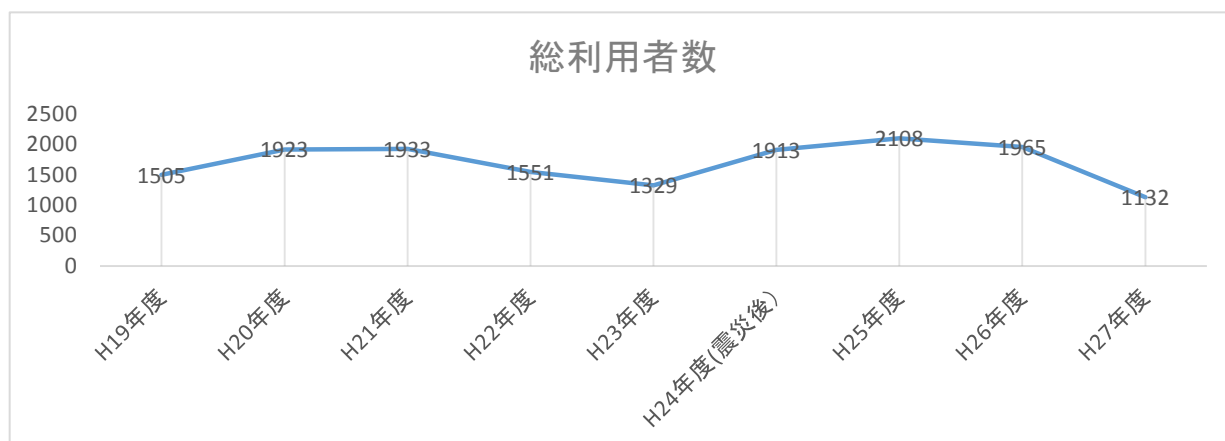
- ①有機溶剤健診 … 4名 有所見なし
- ②特定化学物質健診 … 4名 有所見なし
- ③電離放射線健診 … 3名 有所見なし

IV. 平成 29 年度 感染症発生状況

- ・インフルエンザ：17 名（学生 11 名、教職員 6 名）
前年度：48 名（学生 38 名、教職員 10 名）
- ・感染性胃腸炎：8 名（教職員 8 名）、前年度：2 名
- ・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）：1 名、前年度：0 名
- ・水痘（みずぼうそう）0 名、前年度：0 名
- ・麻疹、風疹、結核：平成 17 年度～発症なし
- ・渡航者の帰国後体調不良：なし

V. 平成 29 年度 利用状況

1. 利用者数



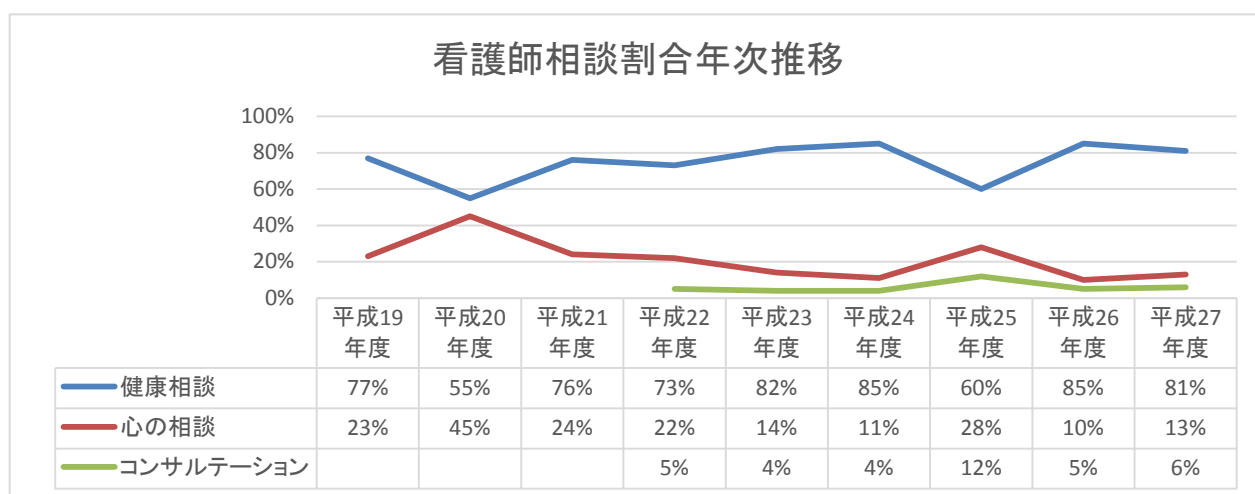
総利用者数は 1182 名※であり、内訳は処置対応が 378 名、看護師相談対応が 744 名であった。前

年度は総利用者数に対する看護師相談対応が60%であったが、平成27年度は6ポイント増加した。科別利用率においては、毎年同程度の割合であるが、皮膚科の利用割合が平成25年度に比べ4ポイント増加した。皮膚科においては、転倒による擦過傷、カップ麺のお湯や自宅調理中などの熱傷などが多くを占めた。

※総利用者数

定期健康診断後のフォロー者数171名を除く。定期健康診断後のフォロー内容には各種計測（高血圧者の再検、希望者に対する視力・聴力測定）、尿再検査（尿たんぱく等）が含まれるが、これらの多くは再検査後に正常となったケースが多く「科」としてカウントしていない。随時尿や夜更かしをした後で採尿を行ったり、走って会場へ来るなど循環動態が安定しないまま血圧測定を受けたりするなど、受検者側に要因があることでフォローしているケースが多い。健康診断資料やアナウンスを十分に行い、また健診業者の協力にて尿検査容器一式にも資料を封入しているが、対応に課題を残している状況である。

2. 相談



看護師が行う相談には、身体面での相談である「健康相談」と、精神面での相談、他の教員や事務員との情報共有などの（ここでは「コンサルテーション」という言葉を用いた）相談がある。

健康相談においては東日本大震災後1か月後である平成24年度は11%であったが、1年1か月後より始まる平成25年度には「心の相談」「コンサルテーション」とともに増加がみられた。平成26年度・27年度においては10～13%で推移している。

V. 報告

本学における子宮頸がん検診受診状況および子宮頸がんワクチン接種状況

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(Human Papillomavirus,以下 HPV)への感染によって引き起こされる疾患であり、日本では年間 9000 人近くの女性が発症し 2700 人の女性が死亡している¹⁾。福島県内の子宮頸がん死亡率においては(人口 10 万人あたり)平成 12 年 3.8 人、平成 17 年 4.8 人、平成 22 年 5.1 人)と漸増傾向にある²⁾。

子宮頸がん予防策の一つに子宮頸がん検診が挙げられ、福島県では平成 29 年までに 60%以上の受診率を目標としている。全国における子宮頸がん検診受診率は、20~29 歳では 22.2%³⁾であるが、いわき市では平成 24 年度 17.3%、平成 25 年度 10.5%、平成 26 年度 5.4%³⁾と減少傾向にある。子宮頸がんおよび前がん状態の予防として、子宮頸がんワクチンは 2009 年に承認され、公費負担によるワクチン接種が小学 6 年生から高校 1 年生を対象に実施されたが、2013 年 6 月より積極的な勧奨は行われなくなったという背景がある。保健管理センターでは 2016 年度より子宮頸がんに関するアンケートを定期健康診断時に実施したため、その結果について報告する。

※本来、本紀要は前年度の結果などについて報告・記述するものであるが、この内容に限り 2016 年度の報告内容となる。

1. 子宮頸がん検診

子宮頸がんを「受けたことがある」学生は 10%であり、「受けたことのない」学生は 90%であった(対象者 384 名中有効回答者数 357 名)。学年別受診率においては、6 年生(薬学部)が 30%、次いで 2 年生と 5 年生(薬学部)が 10%であった(図 1)。検診時年齢においては、19 歳以上が 62%、13 歳~15 歳と 16 歳~18 歳が共に 11%であった(図 2)。受診理由(自由記述、図 3)では「誰か(友人・医師など)の勧め」が 11 名(55%)、「検診のため」が 6 名(30%)、「学校の勧め」が 3 名(15%)であり、親・行政からの勧めにおいては 0 名であった。有効回答数が 20 名であり、全体の回答数(37 名中)の 54%のみのため、正しい回答率とは言えない可能性がある。しかしながら、この回答数に限定して述べると他者からの勧めによるものが全体の 70%に亘るため、継続した介入と知識の普及が受診率向上に寄与できるものと考ええる。

本学では、いわき市保健所の主催により、若者の検診受診率向上を目的とした「子宮頸がん検診」を 2015 年度より開始した。学内では教養学部鎌田ゼミの学生が担当教員およびいわき市保健所地域保健課成人保健係の指導の下、検診のマスコットキャラクター(図 4)を考案、広報へのチラシ掲載(図 5)や啓蒙活動に参加している。県医師会では「特に若年層の受診者が、子宮頸がん検診の受診に対し、躊躇することがないように普及啓発を行うこと」⁴⁾と提言しており、本学においても、20 代の若者が受診に抵抗なくスムーズに受けられるような啓蒙活動が必要であり、そのためには正しい知識の普及や教育が必要であると考ええる。他大学でのアンケート調査では、「受診しない理由」についても調査・分析されており、「産婦人科に行ったことがない」「時間がない」「受診方法がわからない」などが未受診の主な理由として挙げられているものもあった⁵⁾。また、「検査のことがよくわからず不安」「お金がかかる」「症状がないので受けない」等の回答⁶⁾のある大学もあった。今後、子宮頸がん検診受診率の背景や情報収集に

あたっては、このような視点をもりこむ必要がある。

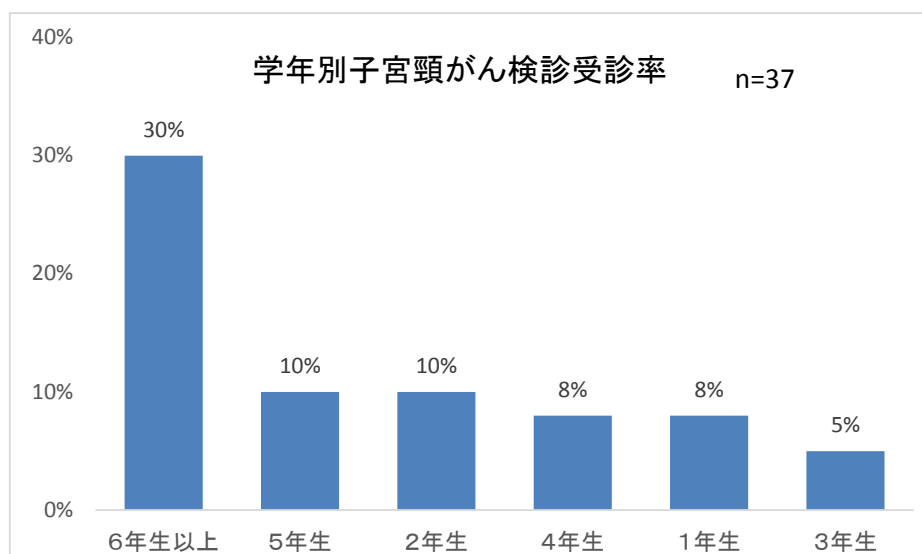


図 1. 学年別子宮頸がん検診受診率

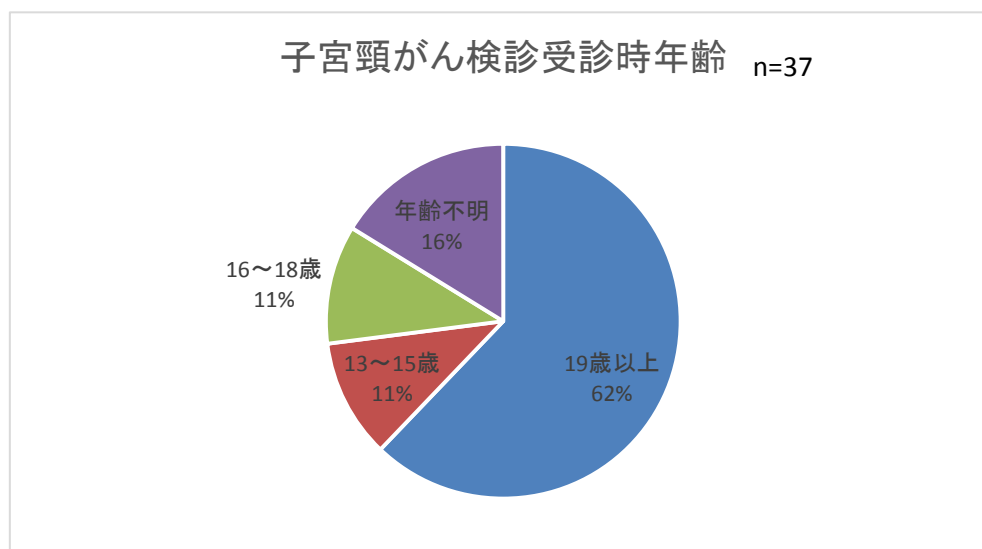


図 2. 子宮頸がん検診時年齢

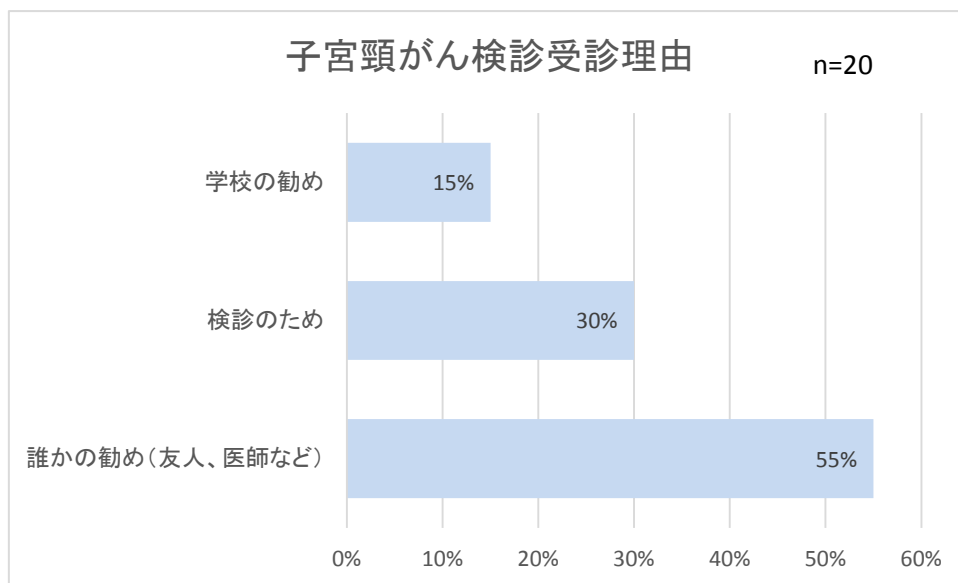


図 3. 子宮頸がん検診受診理由

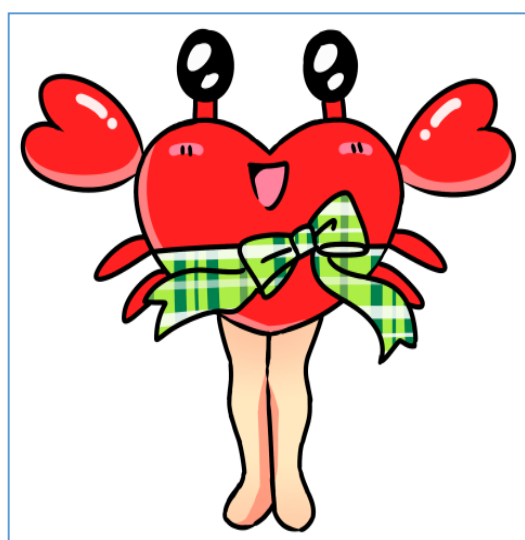


図 4. 本学学生考案のキャラクター

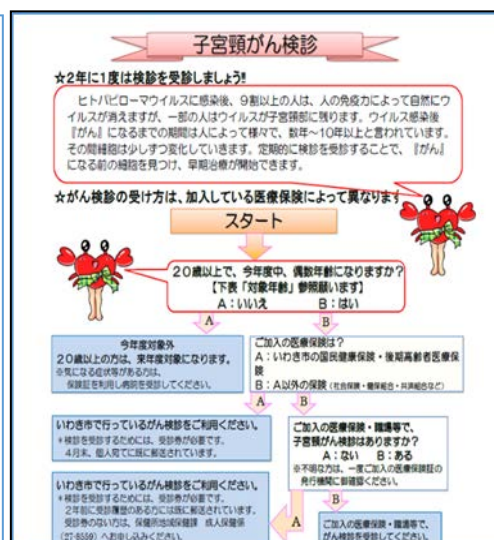


図 5. 一般市民へのチラシ

図 4 のキャラクターは、がん（cancer）とかに座（cancer）をかけあわせ、カニをモチーフに全体のシルエットを子宮の形に見立て、本学学生が鎌田真理子教授およびいわき市保健所の監修の下に作成した。子宮頸がんのテーマカラーである緑色と白を取り入れ、検診（check）の意味を込めてチェック柄のリボンをデザインした³⁾ものである。

2. 子宮頸がんワクチン

子宮頸がんワクチンの接種率は、159 名であり全体の 45%であった（対象者 384 名、有効回答者数 357 名）。接種年齢は 19 歳以上が 45%、13 歳～15 歳が 31%、16 歳～18 歳までが 18%であった（図 6）。接種理由（自由記述）では、「行政からの案内・無料だから」が最も多く 26%であり、次いで「予防のた

め」「学校のすすめ」がともに 20%であった（図 7）。接種理由を「他者からの勧め」として合計すると、全体の 42%にのぼることが判った。

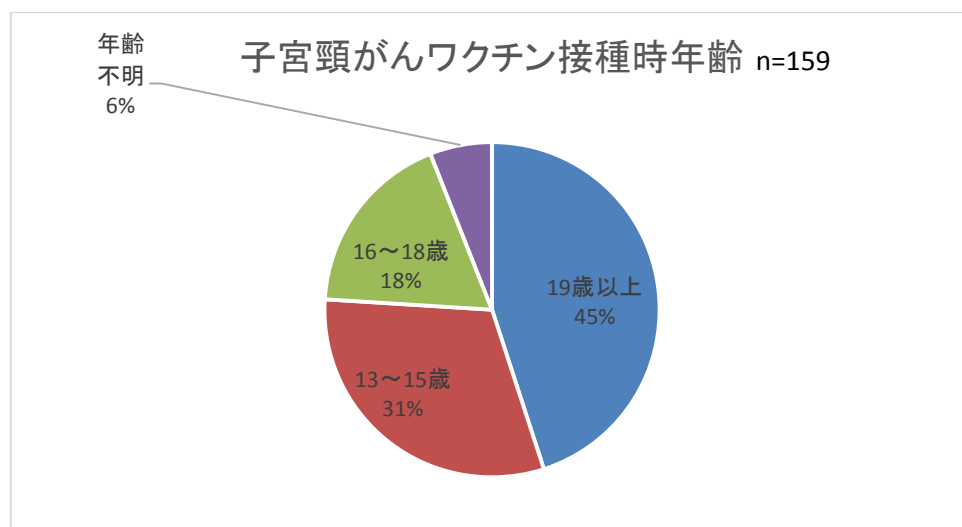


図 6. 子宮頸がんワクチン接種時年齢

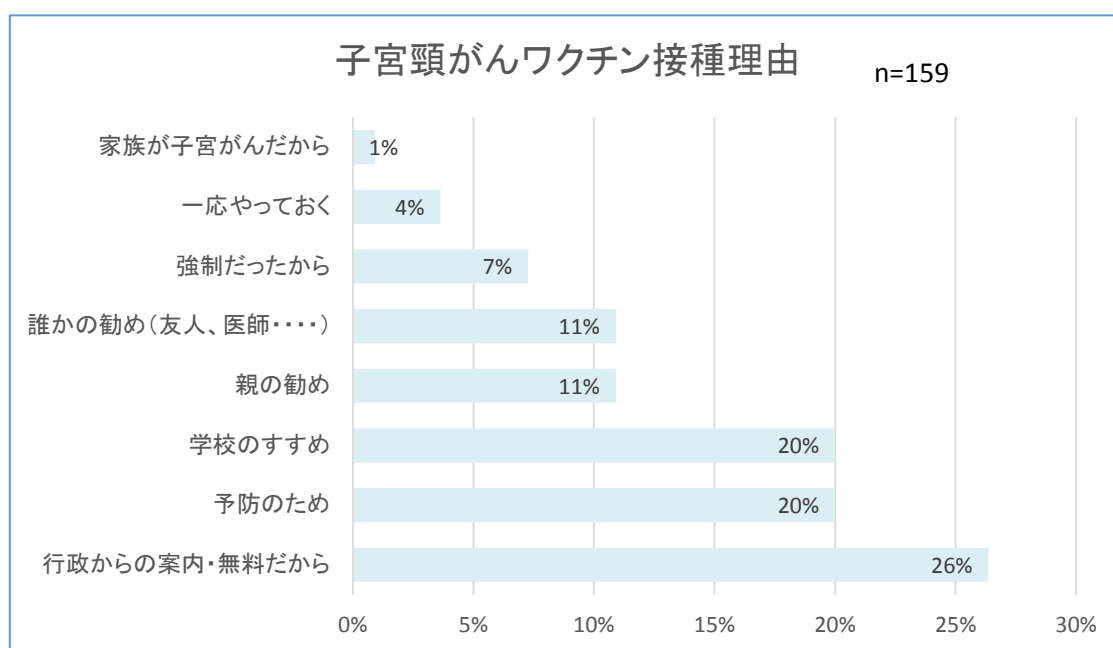


図 7. 子宮頸がんワクチン接種理由

【参考文献】

- 1) 厚生労働省. 子宮頸がん予防ワクチンの接種を受ける皆様へ（平成 25 年 6 月版），厚生労働省.
<<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/>>（アクセス：2017 年 2 月 21 日）
- 2) いわき明星大学鎌田ゼミ資料「がん予防・がん検診の“集い”－学生からのメッセージ－」，平成 27

年 10 月 31 日.

3) 子宮頸がん検診受診率平成 25 年国民生活基礎調査 22.2% (20～29 歳)

<<https://www.med.or.jp/forest/gankenshin/data/japan/>> (アクセス : 2017 年 2 月 21 日)

4) 福島県医師会 平成 27 年度子宮がん部会資料,

< <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21045a/gankenshinjoho.html>> (アクセス : 2017 年 2 月 21 日)

5) 亀崎明子, 田中満由美, 安田昌子, 福田葉子: 女子大学生の子宮頸がんに関する知識習得状況と予防行動の実態および関連要因の検討, 母性衛生 54(2), 303-310, 2013-07.

6) 早坂真貴子, 直島厚子, 富樫整, 新井猛浩, 高橋一広: 大学生における子宮頸がんに関する知識・意識および予防行動の実態について, 山形大学保健管理センター紀要, 第 12 号, 7-13.2013.

VI. 平成 30 年度 保健管理センター利用状況

保健室利用者：49 件（うち救護 31 件）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
傷病等救護	10	6	11	3	0	0
健康相談	10	3	3	2	0	0
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
傷病等救護	1	0	0	2	0	0
健康相談	0	0	0	0	0	0

※7 月以降は看護学部をサポート不可のため大学行事開催日以外は保健室閉室

事務局 1 階救護室利用者：16 件

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
件数	—	4	2	4	0	4	1	0	1	1	0	1

※救護室は 5 月から開設

保健管理センター業務報告

いわき明星大学保健管理センター紀要第17号

2. 学生相談部門

学生相談部門

◆平成 29 年度活動報告

1. スタッフ一覧、主な業務内容

4 月～9 月まで

職位	氏名	担当業務
専任	澤田明子(週 5.5)	(1)(2)(3)
非常勤	玉木千種(週 3)	(1)(2)(3)
看護師	大平恵(週 3)	(1)(2)(3)
兼任	山本佳子(不定)	(4)
兼任	富田新(不定)	(4)
兼任	林洋一(不定)	(4)

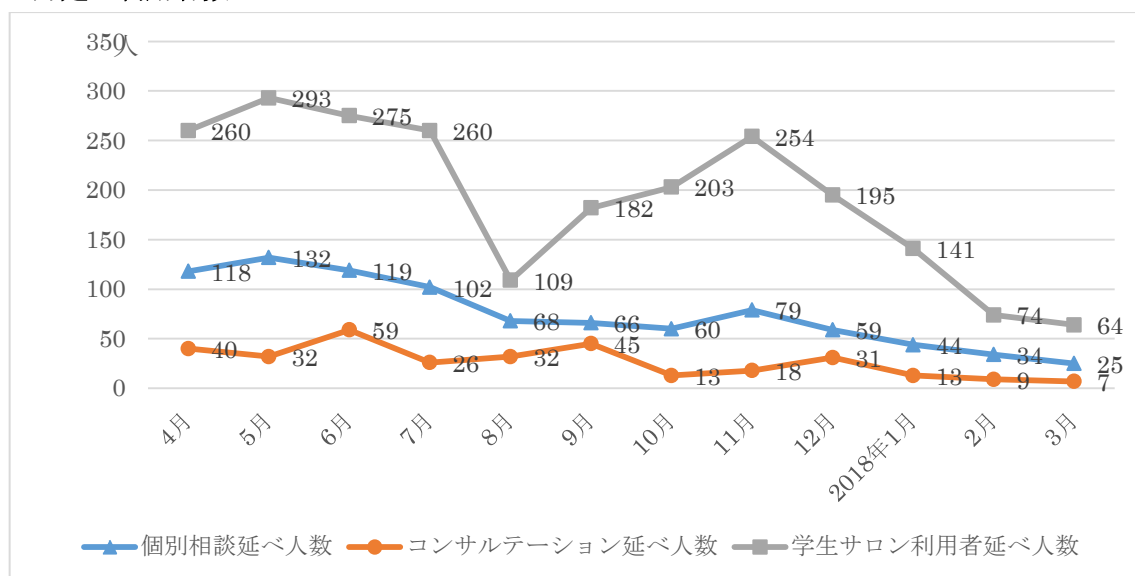
10 月以降

職位	氏名	担当業務
非常勤	玉木千種(週 3)※	(1)(2)(3)
非常勤	大越成子(週 2)	(1)(2)(3)
看護師	大平恵(週 5)※	(1)(2)(3)
兼任	山本佳子(不定)	(4)
兼任	富田新(不定)	(4)
兼任	林洋一(不定)	(4)

※勤務時間延長

(1)個別相談 (2)学生サロン (3)その他の部門運営関連業務 (4)スーパーバイズ
--

2.月延べ利用者数



3. 属性別相談者実数および延べ相談件数（個別相談+サロン相談）

	学生	コンサルテーション					合計
		教員	職員	家族	専門家※1	就職関連施設職員※2	
利用者実数	61	23	13	15	2	3	117
延べ相談件数	906	191	63	49	2	20	1231

※1 専門家：医療機関、発達障害支援センター

※2 就職関連施設職員：障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、就労移行支援事業・トライアル雇用先等

4. 学科別 個別相談者実数および新規相談者実数

学 科	人数			
	H26	H27	H28	H29
生命環境	1	1	0	0
科学技術	17(9)	15(7)	7	6(3)
地域教養	—	16(16)	30(20)	30(10)
表現文化	11(2)	11(5)	5(2)	3
現代社会	11(5)	12(6)	8(5)	2
心 理	23(7)	25(14)	10(4)	5(1)
薬	9(9)	24(19)	17(3)	14(9)
大学院	2(1)	1(1)	1(1)	0
履修登録生	1	1	1	1
合 計	75(33)	106(68)	79(35)	61(23)

・ H29 年度より新設の看護学部利用者は 0

5. 学生サロン

属性別学生サロン利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
科学技術	35	39	42	34	24	27	31	35	26	18	19	6	336
地域教養	111	134	136	123	26	79	108	143	105	77	26	21	1089
表現文化	32	33	33	29	14	18	24	26	25	14	7	7	262
現代社会	2	8	3	7	4	3	3	4	3	2	1	2	42
心 理	13	10	13	9	3	7	8	9	7	3	1	1	84
薬	46	35	23	33	21	25	21	23	14	22	14	16	293
履修登録生	0	2	1	1	1	4	0	1	0	0	0	0	10
卒業生	20	14	24	17	13	19	8	10	10	4	4	9	152
教 員	0	8	0	3	0	0	0	3	1	0	0	1	16
職 員	0	7	0	3	0	0	0	0	3	0	1	0	14
保護者	0	2	0	1	3	0	0	0	1	1	1	0	9
元職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	260	293	275	260	109	182	203	254	195	141	74	64	2310

学生サロン延べ利用者数約 2300 名、利用者実数 101 名である。

今年度に入り、マンパワーの減少に伴い、新体制での業務を試行錯誤しながら行ってきたが、10月より常勤カウンセラーの退職により、さらに大きな困難が生じた。

今まで通りのサロン内での関わりが困難な時もみられたが、サポートスタッフ（学生）に手を借りながら、なんとか学生サロン機能の維持に努めた。

サロン行事として、月2回のランチセッション&レクリエーションは、10月からは困難と予測し、レクリエーションの代替行事として、もの作りを導入した。

もの作りは、日程を決めずにサロンに来たときにいつでも出来るプログラムとした。そのプログラム内容としては、「折り紙で作る壁画飾り」「自律神経を整えるぬり絵」「編み物」、さらに作業ボランティアに来ていただき、「クリスマスリース作り」「かご作り」を実施し、いずれも学生に好評で、休学中の学生も頻回に大学に足を運ぶようになり、サロンの中でのもの作りの影響は大きいと考えられた。

今年度は、科学技術学部岩田研究室との協働による「動物ふれあい体験」行事を前期は5月・7月の2回、後期9月・11月の計4回開催し毎回10名前後参加者を得ることができ好評を得た。

6.まとめ

マンパワーの減少により、運営方針を4月に新体制へと切り替えたが、10月に再び常勤カウンセラーが退職となり運営方針を再び変えざるを得ないと思われた。しかし、何とか週2回非常勤カウンセラーの新たな確保と、残されたカウンセラーと看護師が勤務形態を変更することで、金曜日のカウンセラー不在以外は何とか体制を維持することができた。

個別相談、学生サロンともに利用者の緩やかな減少がみられた。マンパワーの減少も一つの要因であるだろうが、利用者の学生相談室の一人当たりの利用時間も変化している印象であり、今後利用の仕方がシフトしていくことも考えられた。学生サロンにスタッフが常にいて学生を見守っている状態ではなくなったため、不安を訴える学生も少なからずおり、マンパワーの不足をどう補っていくか課題が残った。今まで行っていたサロン行事(ランチセッション&レクリエーション)は、10月以降もの作りなどにシフトしていったが、少しの合間でも参加することが可能であり、今まで不定期だった学生なども定期的に来室するようになるなど効果がみられており、現在利用している学生達にマッチしたものが提供できたと考える。

看護学部の利用も現在までなく、31年度健康医療科学部が新設予定とのことから新しい学部はどう広報していくかも課題である。

(玉木・大平・大越)

◆平成 30 年度活動報告

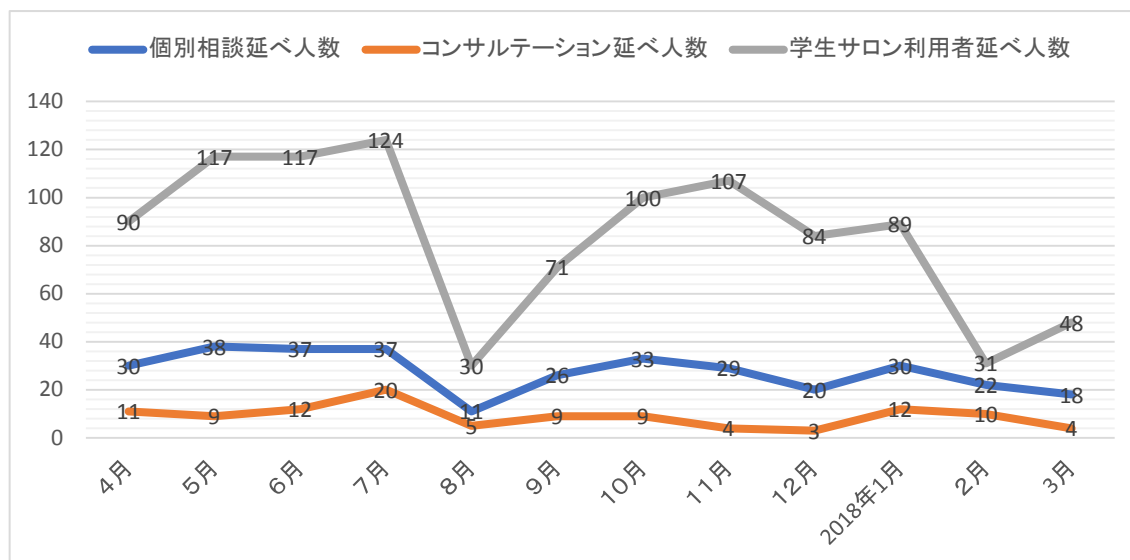
1. スタッフ一覧、主な業務内容

職位	氏名	担当業務
非常勤	玉木千種(週 3)	(1)(2)(3)
兼任	野村昴樹(週 0.5)	(1)
兼任	増山晃大(週 0.5)	(1)
兼任	山本佳子(不定)	(4)
兼任	林洋一(不定)	(4)

※4 月～7 月まで

- (1)個別相談
 - (2)学生サロン
 - (3)その他の部門運営関連業務
 - (4)スーパーバイズ

2.月延べ利用者数



3. 属性別相談者実数および延べ相談件数（個別相談）

	学生	コンサルテーション					合計
		教員	職員（元職員含む）	家族	専門家※1	就職関連施設職員※2	
利用者実数	33	17	3	7	4	1	65
延べ相談件数	331	75	11	14	6	2	439

※1 専門家：医療機関、発達障害支援センター

※2 就職関連施設職員：障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、就労移行支援事業・トライアル雇用先等

4. 学科別 個別相談者実数および新規相談者実数

学 科	人数				
	H26	H27	H28	H29	H30
生命環境	1	1	0	0	0
科学技術	17(9)	15(7)	7	6(3)	0
地域教養	—	16(16)	30(20)	30(10)	24(8)
表現文化	11(2)	11(5)	5(2)	3	2
現代社会	11(5)	12(6)	8(5)	2	0
心 理	23(7)	25(14)	10(4)	5(1)	0
薬	9(9)	24(19)	17(3)	14(9)	6(1)
看 護	—	—	—	0	1(1)
大学院	2(1)	1(1)	1(1)	0	0
履修登録生	1	1	1	1	0
合 計	75(33)	106(68)	79(35)	61(23)	33(10)

5.学生サロン

属性別学生サロン利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
教 養	65	74	72	84	14	46	65	75	57	64	22	23	661
表現文化	8	13	13	14	5	8	11	9	6	9	3	9	108
薬	13	19	18	16	5	10	13	10	11	7	2	8	132
看 護	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
卒業生	3	6	4	6	2	6	9	9	5	5	1	4	60
保護者	1	1	0	1	2	1	1	0	1	1	2	1	12
元職員	0	1	2	2	0	0	0	3	2	1	0	2	13
ボランティア	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	1	7
教 員	0	1	3	1	1	0	0	0	1	1	1	0	9
職 員	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
総 計	90	117	117	124	30	71	100	107	84	89	31	48	1008

属性別学生サロン利用者実数

学部・学科	実 数
教 養	28
表現文化	2
薬	6
看 護	1
卒業生	8
保護者	7
元職員	4
ボランティア	1
教 員	4
職 員	4
総 計	65

学生サロンイベント

日程	プログラム内容	人数
5月7日	クラフトワーク	6人
6月4日	クラフトワーク	6人
7月9日	グループコラージュ	10人
10月1日	クラフトワーク	3人
11月19日	クラフトワーク	9人
12月17日	クリスマス会	21人
1月21日	クラフトワーク	5人
3月11日	卒業生を送る会	18名

6.まとめ

マンパワーはさらに減少となり、非常勤カウンセラー1名での活動となった。

個別相談、学生サロンともに利用者は前年度の約半数となったが、実質1名での学生相談運営ではこの人数が限界ともいえる。マンパワー不足ため、サロン内イベントの開催は毎月できなくなったが、もの作りイベントやクリスマス会の行事がある時は、ボランティアや元職員などにも声をかけてできる限り対応した。昨年度からはじめたかご作りなどのもの作りは、普段集団を苦手とする学生も、作業していれば特に会話が強制されないため緊張感も普段より感じないとのことで参加しやすいようであった。イベント行事はクリスマス会と卒業生を送る会のみとなったが、卒業生も参加しやすいイベントであることから20名前後の参加者であった。在校生、卒業生と集まりやすい貴重な集いであることから、来年度以降もなんとかイベントは継続していきたい

看護学部の利用が今年度は初めてあった。次年度より健康医療科学部が新設予定とのことから新しい学部はどう広報していくかも課題である。

(玉木)

いわき明星大学保健管理センター紀要 第17号

2019年 9月1日 発行 (非売品)

発行者 医療創生大学保健管理センター

発行所 医 療 創 生 大 学

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

電話 0246-29-5111(代)

いわき明星大学は2019年4月1日に医療創生大学へと名称変更いたしました